

分類 外 3 級 3 項 0 目 3 号 2

902

日本外交協會第二百六十八回例會席上

清澤 冽氏 述 (要旨)

歐米は日本を如何に觀て居るか

(昭和十二年七月)

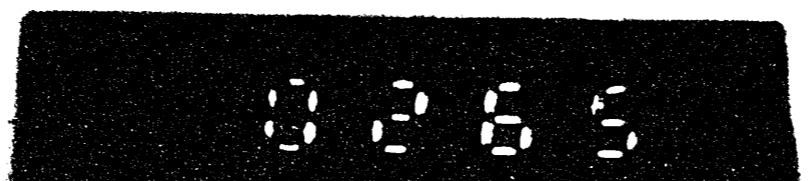
日本外交協會

73

昭和十二年七月  
清澤 冽氏 述  
日本外交協會  
海備係  
三 〇

S 1.3.3.0-1 853 6104 0465

REEL No. A-0362



アジア歴史資料センター

902

お断り

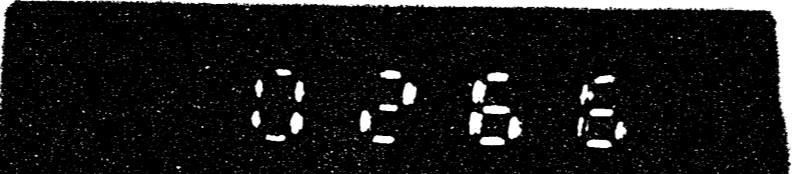
本篇は昨年晩秋渡航、世界パン倶楽部に出席、後ち各國を視察検討したる清澤冽氏が最近帰朝の翌々日、協會例會にて試みられたる講演の要旨なるが説く所概微に觸るゝ事多きにつき、本謄寫受贈者は取扱につき特に御留意相成度し。

尚ほ本謄寫は未だ講演者の十分なる査閱を経ざるものにつき、内容其他一切の責任は本協會にある事を附言す。

昭和十三年七月

日本外交協會調査局

S 1.3.3.0-1 6105 854 00 0466



目次

序言—喋らぬ管をが 一

一、海外より母國を見る 二

1. 報告、ニユースも國策的 二

2. 帰朝毎に驚く思想変轉 六

3. 客觀性を持つぬ缺點 七

二、歐米の對日感情 九

1. 英國にも隠れたる日本同情者 一〇

2. 伊は全面的好感、獨は複雑 一一

3. 佛は飽まで個人主義的 一四

4. 深刻なアングロサクソン系 一五

5. 日本から帰ルは反日 一八

三、何故排日的になるか 二〇

S 1.3.3.0-1 6106 855

四、日本よ、何の爲に戦ひ？ 二二

五、日支問題は「善・悪」より「賢・愚」 二六

六、要するに經濟戰 二八

1. 日本の信用低下を信ず 二八

2. 日本品に信用なし 三〇

3. 圓に暗相場あり 三一

七、英國を凝視して 三三

1. 日本は支那をどうするか 三三

2. 負けて勝つた對伊外交 三五

3. 愛蘭問題に見せぬ腹藝 三六

4. 融通、豹変自在の國柄 三九

八、對英宣傳、但し主観抜き 四〇

九、國際會議を善用せよ 四五

目次(終)

S 1.3.3.0-1 6107 856

歐米は日本を如何に観て居るか

清澤 冽氏 述 (要旨)

序言―喋べらぬ筈だが……

私は人間は純粹の日本人であります。が話は少し人工のヌ・フが入つて居るかも知れませぬ…… (笑声)。日本へ帰つて参りました。一番先に私が忠告を受けましたことは何處へ行つても「戻るべく喋るな」と云ふことで、親切な友人は私の歸朝早々手紙や電報をいであう云ふことを云つて来て居ります。今朝も先輩から「君あまり喋るな」と云はれた、豈喋るべけんやであります。即ち喋ることゝが甚だ

0467

S 1.3.3.0-1 6108 857

不利益のやうに見られて居るやうでありますが、私も實はさう云ひ考を以つて参りました。雑音の多い中には、今一つ雑音を加へると云ふことは、日本のためにもよくあるまい、日本に歸つては出来るだけ静粛にして居るやうに思つて参りました。ところが船が神戸に着くと、この私を喋らせやうとする電報が後通も来て居る、併しさう云ふ氣分で居りましたから皆断つた。その中に「半澤」と云ふ電報か一通あつた、私はその時思ひました、これは手剛いで、これを断ると云ふと後難煩る恐しいものがあるので…… (笑声) 遂にお引受け致したやうな次第であります。

海外より母國を見る

1. 報告・ニュースの國策地

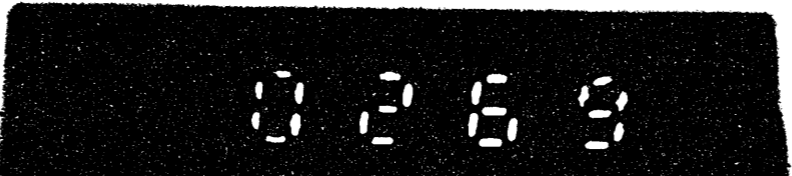
S 1.3.3.0-1 858 6109

外國へ行つて特に感じますことは、日本に對する報告——外國に在る日本人官民の報告が悉く、所謂國策の線に沿うて居ると云ふことでありませう。ロンドンに在る——名前は一寸申し兼ねますが——ある大銀行の支店長をして居る人が、ロンドンの事情を詳しく電報で打つ、すると三回に一回位は本店からお小言を食ひ、「あ、云ひ電報を打つと大藏省のお叱りを受けるではないか」とお叱りを受ける。その人は非常に氣骨のある人で、「自分は日英關係に関する情報を集めて、それを事實良心的に打つのであるが、日本からは、正しい電報はエ合が悪いと言つて奇越す。これは自分に嘘の訓練をするやうなものだ、自分はそんなことは出来ないと怒つて居りました。同じやうなことをどこでも聴かされて來ました。例へば新聞の特派員と云ふものが向ひに居る、何か日本に不愉快なことを打つと——普通の報道に過ぎないものでも直ぐ、本社から劔突を食ひ、劔突を食つて喜ぶものは先づないのでありますから、従つて本社の顔

S 1.3.3.0-1 6110.859

色を見て、國策と云ひか、社策と云ひか、その線に乗りさうな報告のみをする。その報告は社策として大きく出る、それがよく日本のニュースの根柢をなして居ると云ひやうなことが、外國からはありと見えるのであります。かう云ふことは何處へ行つても聴きます。香港、シンガポール辺りの對日空氣が少し悪いと、ニュースとして直ぐ大きな新聞で大きく書く。例へば英國の官憲が非常に排日運動をやつて居ると云ひか、それは絶對的の報告ではない、成る程民衆の對日感情は悪いが、それは對して官憲としてはあらゆる方法で公平にやつて居るのでが、それを日本に電報を打つ場合、民衆の感情が悪いと云ひだけでは効果的でないで、官憲が煽動的に排日をやつて居ると打つから、それが大きく新聞に載る。従つて日本にだけ居つて香港やシンガポールに行かないものから見ると、英國の官憲が終始排日はかりやつて居るやうに考へられる。斯う云ふ点は餘程注意する必要がありますが

S 1.3.3.0-1 6111.860



ぬか。私はシンガポールや香港にはたゞ寄つただけだから詳しい事は知りませぬが、あそこには居る人々の話では、あれは新聞が拵つた記事だと云ふことを識者階級は皆言つて居ります。

元來人間の判断と云ふものはニース・ソアースによつて構成されるのであります。例へば同じ日本から特派員が二年前にローマとかベルリンとかロンドンとかに行くとする。初めは同じやうな考へをもつて日本を出たものが、二年後にその人達に會つて見ると、もう全く違つた觀察を致して居ります。ローマに居るものはイタリアの事情から見てその考へ方をし、ベルリンに居るものはドイツの事情からその判断を形成して居る。更にロンドンに居るものは無論英國から見た世界の情勢を考へて居る。私共は各地を旅行して同じ知識・判断力をもつものがあるのニース・ソアースによつて——その土地によつてかうもその判断が違ふものかとしみじみ感じさせられたのであります。

五

S 1.3.3.0-1 6112 861

三 帰朝毎に驚く思想の変轉

六

私は日本に帰つてまだ四五の人々しか會つて居りませぬから、國內の情勢に付てはよく知りませぬが、日本の考へ方が如何に世界と隔絶して居るかを感じます。これは小さな問題ではない、根本的の考へ方に於て日本人の現在の考へ方と、世界の人々——と言つてもドイツ・イタリイは違ひますけれども——と比べると違ひかといふことを深く感ずるのであります。

私は七八年前に外國を兵隊リ一ヶ年はかり旅行して参りました。その時歸つて來て驚きましたことは、日本の知識階級と云ふ知識階級は、悉くマルキシズムにかがれて居つて、私共のやうな生々たる主義のものは、まるで馬鹿のやうに非難されて、僅かにどうにか思想界に残つたのであります。あの儘で行けばマルキシズムならざるものは殆んど葬られて了つたかも知れない状態であつた。ところが

S 1.3.3.0-1 862 6113

今度帰つて來まして——まだ帰つた早々で日本のことはよく分りませぬが、現在は當時とは正反對の方に振子が行つてゐるやうに思ひます。

四、客観性を持たぬ缺点

英語で *Wishful thinking* と云ひ言葉がありますがこの希望的考へ方は頗る危険な私と思ひ。希望を初めから決めて居つて、その枠内にあつて報告をする、枠内でもつて世界の情勢を判断する、これは國民全体の考へ方を輪はしはせぬかと思ひ。國內の情勢と云ひものはその確力者の言ひことによつて、ある程度までは、その通り動きますが、國際的情勢は日本の考へ通りには動かない。その希望的考へ方によつてニュースを集め、これを基礎として國策を論むと云ひことは、結果が或は反對なことに成りはしないかと云ひ

S 1.3.3.0-1 6114 863 0468

事を慮れるのであります。さう云ひ客観性をもちたない云ひ缺点がドイツ・イタリーの如き國もさうであります。現在の日本にしろういひことはないかと云ひ事を慮れて居ります。私が英米の提携は動かないと、ある雑誌に書いて送ると、それが伏せ字になつて居たさういひ觀察を隠さぬならぬ必要がどこにありませうか。私には判らないのであります。

外國に行くといろくの人々と故國の前途、現状及び國際關係等を憂へて議論をする。かその人々が異口同音に言ひことは「自分は日本に飯つたら黙るぞ」と云ひのです。覆はお歸りになつた石井さんもあまり話させぬやうだし、その他の有力者も吃度あまり話をせぬものと思ひ。外國へ行つたものは日本へ歸つて來ると、出來るだけ沈黙しやうと思つて居るやうであります。喋るものは極端者強かりを云ひ人か、曖昧な場当り藝をする人に限ります。さうなりますと云ひと、外國の親切なるアドハイスと云ひものが國民の間に届か

S 1.3.3.0-1 864 6115

ないのではないかと懸念されます。せめては知識階級及び國家社會に相當の責任ある階級の間に於ては、自由にしてフランクな報道、忠告——少くとも客觀的情報の検討位を許さねばならぬ、これは極めて危険なものではないかと痛感するのであります。

二、歐米の對日感情

第一にお聴きに成りたいとお考へになります事は、日本に對する外國の感じはどうかと云ふことであらうと思ひますが、これについては外國から歸つて來たものゝ殆んど全部は「日本の人氣があまりよくない」と言ひであらうと思ひます。これだけよいか、これだけ悪いかは別問題ですが、日本の人氣が絶対によいと云ふ人は殆んどあるまいと思ひ。これだけ悪いかと云ふ程度問題は之を測定するべき機械がないのでありますから、主觀的たるを免れない。非常は悪い

S 1.3.3.0-1 6416 865 0469

と考へるものには案外そんな風に悪くもなかつたり、良いと考へるものには案外悪い事があるかも知れない。石井さんの如きも、私の知つて居る範圍では、ロンドンへ來る前——パリ——あたりまでは大變樂觀のやうでありました。で向かいのある人が石井さんの樂觀的な認識の仕方を聞いて私に「石井さんもあるやうな考へで居ると今に失望するであらう」と言つて居りました。——その後の感想は聴きませぬかどうでありますか。(中略)——併しイヤリス返りは非常に人氣が悪く、日本人が街でも歩くと石でも投げつけられるかも知れないと思つて居つたものには人氣が案外いゝのは驚くといひわけである人が「ロンドン返りには排日の感じはあまりないではないか」といつてみました。

1. 英國にも隠れたる日本同情者

S 1.3.3.0-1 866 6117



私は向いで倫敦タイムスに投書をしたことがあります。曰日本の反英的傾向と云ふものは、要するに英國の對日感情が悪化したその反映である。罪はまづ英國にある。そこで日英關係を向上させるには英國がまづ反省すべきである。と云ふ意味のことを書いて投書した。これは依先きで投書したのであります。歐洲を旅行してロンドンへ科が帰つて見ると、これは對する反響は非常に大きかつた。流石にタイムスあたりの投書はこゝろに反響があるのかと驚いたが、その反響——普通ばかりの手紙のうち、個人的感情から私の説を非難したものが三三通あつたのみで、あとの十七八通は日本を辯護して居る。自分日本に居つたこととあつて日本の事情に付ては精通して居る。日本人は非常に親切な國民である。現在英國が感情的に日本を排斥すると云ふことは悲しむべきことである。と云つたやうなものが多かつた。さう云ふ風に英國には日本の同情者が、現在に於ても、表面になつて現はれないが、裏面には沢山あると云ふ

S 1.3.3.0-1 6118.867 0470

ことを知つて私は意を強うした。

2. 伊は全面的好感、獨は複雑

また世界の對日感情と云ふましても、その國によつて自然に異なるやうに、英・米・フランス・ドイツ・イタリー、いづれも同じではありません。一番よいのは何人と言つてもイタリーをと思ひます。これはムソソリーニが押へて居つて、支那に對する取引も小さく利害關係も薄いからでありますし、それから外交上は於ては英國を對手とする必要がありませんから、かたはイタリーの日本に對する人氣は頗るよいのと思ひます。

ドイツは私の考へではやゝ複雑です。御承知の通りドイツは軍費がなくて、何處かへ物を賣らなければ困る立場にあります。そして近年ドイツが有望視して來たのは支那の市場であります。ところが

S 1.3.3.0-1 868 6119

去年の九月・十月頃から支那貿易が殆んどないことになつたので、商賣人は支那事変に對してあまりよい感じをもつて居りません。またナチの党尾は絶對に防共協定の賛成し、日本を支持して居りますが、民間の間では必らずしも日本をこれほど支持して居るものもある。私は同じ船で米國人記者で、伯林に七年半も居つた人と一緒に居た。その人の話では「ベルリンでは今度の日本の支那に對する行動には批判的でまじくである、殊にバルリンに於けるインテリの日本に對する人氣は云々ものは悪い」と言つて居りました。またその人のいふところでは、ドイツ人は「日本人とアメリカ人は非常に異なる。スリパインアルな國民である」と言つて居つたと話して居りました。もつともヒットラーが抑へて居りますから、それ等の感情が表面に現はれるやうなことは絶對にないと思はれる。故にドイツ人は日本の支持者と見て一向差支ないのであります。その感情を割つて見ると、イタリよりはもつと複雑な利害

S 1.3.3.0-1 6120 869 0471

關係があることを頭に入れて置いてよいと思ふ。

3. 佛は飽くまで個人主義的

フランスが日本に感じの悪いのは御承知の通りです。人民戦線の政府であるから、その國民が日本に對して感情のよい譯はない。しかしこれには但し書きがある。大体フランス人と云ふものは非常に個人主義に徹した國民である。また美術と云ふやうなものには大變趣味を持つて居る國民であるが、對外政治と云ふやうな事には餘り趣味を持たない國民である。よくパリーの街角などに笑顔をかけた人の寫真が飾られてある。その來歴を聞いて見ると、或時セーヌ河に十七八才の娘が身投げをした。届出によつて所轄の警察署長が飛んで行つて見ると、その身投げした娘が如何にもニコニコして居つて藝術上の儘の趣がある。そこでこの署長は檢視する前にまづテス

S 1.3.3.0-1 870 6121

マスクを取らうと云つて藝術家を呼び寄せテスマスクを取らして、そのあとで屍体を検視したと云ふ話を聴きました。そのやうにフランス人は藝術的のこころには非常に敏感な國民でありますけれども、個人主義的を關係から、日支關係に對してはそんなには一般的には興味を持つて居りませぬ。併し労働組合などは別です。また労働組合なども日本に對してよい感じを持つて居りませぬ。ある郵船の船がマルセイユから機械を積み込まうとしたところ、労働者が反對し荷役を妨害するので、遂に仕方なくナポリから積込人などを云々語でありましたか、労働組合等の感じは別として、一般的の空氣はパリーなに行つた日本人に對しては際立つて反感と云ふやうなことは全く感じませぬ。新聞などでも日本側に遠慮しつつ、書くと云ふ風であります。

4. 深刻なアングロサクソン系

二五

S 1.3.3.0-1 6122 0472 871

私の考へでは一般的に悪いのはやはりアングロサクソン系ではないかと思ひ、アメリカのことは昨年十月に十日ばかり居つただけでよく存じませぬが、英國には多少の同情者はありませうけれども、表面に現はれる感情は、日本に對して決してよくはないやうであります。その具體的のことを申し上げますと、例へば郵船會社で毎年夏に船を仕立て、ササンプトンからハンブルグまで遊覧客を乗せて行く。その客の顔觸れも大体年々同じやうなのが半分位占めて居るのを常とする。ところが今年の中込みが非常に少ないので、どうか御参加頂けませんかと云つて會社側で勧誘の手紙を出して見ると、現在日本が支那に對して、あゝ云々事をやつて居る間は日本のものに對しては一切ホイコソトするとの返事だつたさうで、これは郵船の支店員の話である。それから私の乗つて参りました照國丸船長の話では、以前は印度、シンガポール行の英國のお客さんが澤山居りました、何時でも半分位はそれであつたが、今度の事件以來非常に

S 1.3.3.0-1 872 6123

少なくなつて来た。この船をどうも英國人の客はたつた一組である。しかもその人は郵船會社の社員同様の人だ。あとは英人は誰も乗らぬ。荷物も今までは大概一杯になるのにこの船も胴腹を現はして居ると云ふので、それに依つても英國の日本に對する傾向が判るのであります。船長は随分永い間船長をやつて居るけれども、今度のやうに深刻な目に逢つたことは曾つてないといつて居りました。この船長の話であります。船長をどうも船の外に出ると云ふと、荷役の労働者などは船長との他に「ベビー・キラー」と悪口を浴せる。これは空爆などやつて赤鬼返も囂雑にするといふので、それを悪口の種にするのです。また日本大使館の運轉手の話であります。日本大使館の徽章のある帽子を冠つて街などに行くといふ西洋人が大勢寄つて「チエリチエリ」と云ふさうであります。日本大使館の人には何故働いて居るのかといふ意味なのです。これは無論労働者の間のことでありませんが、一般の人氣は大體さう云ふ風であります。

S 1.3.3.0-1 6124 0473 873

5、日本から帰れば反日

今一つ私が甚だ心外に思ひましたのは、外國人で最近日本に來たものが非常に日本の悪口を言ふこととあります。今まで私共の経験では外人を日本に連れ行くといふ等は大体親日になります。イギリス・アメリカ辺りの人間を日本に連れ行くといふと必ずあつたがよい。私共は手紙を寄越して日本に居つて時の御禮を言ひ、ところが最近日本に來たものは殆んど例外なく非常に日本の悪口を言ひ、これは「ニューヨーク・タイムス」の記者の話ですが、同君は合同通信の伯林特派員のところに日本の事を知りに行つた。この人は日支事変の際に本社から命令を受けて日本に來たといふある人だが、「日本人といふものは人を賣る。反動的な、信用の出來ない人間である。寧ろ支那へ行つた方がまし」といふと非常に悪口を言つた、と語してゐました。また或る名士夫人の話であります。先頃日本から一緒に英人と渡

S 1.3.3.0-1874 6125



航したが、船中非常に日本の悪口を言ひ。この悪口の中には帝國ホテルに泊つて、日光に行つたが飯つてみると書類がバラバラになつて居る、ホーイに見えらうと云ひと見ませんと答へをが、返事が曖昧なつた。誰か見たに違ひないと斯う言ひ。上海などには揚つても外人は盛んに日本の悪口を言ひた。それが近頃日本に行つたものにも多いといひのです。あなた方があちらからお帰りになつた人だをたても聴いて御覽になれは解ることです。最近日本を訪問したものが例外ないまで日本に反感を持つてゐる。その一番大きな原因はあまりに西洋人をスバイ視することにあると、ある親日外人が言つてゐました。同じやうなことを何回となく調べられ、さうしてつきまとはれる、實にひどい國だと某名士夫人が言つて居りました。それ事實かどうかは私は知りませぬ、何分一昨日帰つて来たばかりのことで現在の日本の様子はよく知りませぬけれども、以前に來た外國人は殆んど總べて日本に同情して日本の友人になるのに拘り

S 1.3.3.0-1875 6126 0474

ず、何んの原因か知りませぬが外國人で近來日本へ來るものゝ多くは、敵地に來たやうな不愉快な気分を帰ると云ひことは事實のやうであります。これは國內の所謂有力者の方々がお考へになるべきことで、さう云ふことであつたら改善の方法を考へて頂きたいと思ひのであります。

三、何故排日的になるか

そこで問題は何故排日的になるかであります。これはいろいろの理由があると思ひのであります。私はパライグの國際學術會議の席で、各國の人に話をして、日本の立場を説明して、同感を得ました。非常な愉快でありましたが、その會議の席へ來て居つたマンニングと云ひロンドン大學の國際問題の教授があります、この人が私は「ヨーロッパへ來て一般の日本に對しての空氣はどうか」と質問し

S 1.3.3.0-1 876 6127

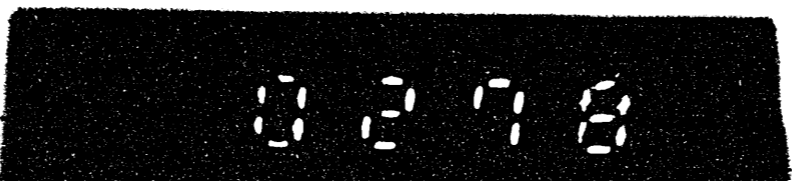
ましたから、私は皮肉の積りで「各地にも案外いゝ、悪いのは英國が一番だ」と言つた。さうしたら氣の毒さうな顔をして、「なせ英國で人氣が悪いかに云いと、英國は國際聯盟が出来てからあれで世界の平和が確立したと考へた。(我々から見ると非常に單純な考へ方であるが、集團機構が出来てそれによつて、世界の平和が確立したと考へて居つた) それを破壊したのは誰よりも早く日本であつて、その後ドイツ・イタリイがそれと真似た、元兇は日本である、それに對する憎しみであるにこれかマニングの説明であつた。これはさう云ふことも確かに排日の原因であると思ひます。

それから第二の理由として私自身考へて居るのは、大体アングロサクソンに云ふものは一種の人道主義的なところがある。女を尊重するとか子供を尊重するとか兎に角弱いものを可愛がる。私がロンドンに居ります時に或る新聞に出て居つたが、或る老婦人が隣家の百姓を告發した、それは隣りの兎を虐待したと云ふのである。そこ

S 1.3.3.0-1 6128 877 0475

で裁判所でその百姓を喚び出して調べたところ、兎が自分の畑に来て作物を荒して仕方がないのでそれで殺したと云ふことで無罪放免になりましたが、動物を虐待するに云ふことが告發の材料になるといいのです。彼等は一種の女性的な道徳をもつて居る。これが彼等の國民性でありますから、日支事変に於ても非戦闘員を殺したとか、婦女子を害したとか云ふやうな支那側の宣傳を聞いて日本と云ふ國は野蠻な國で、さう云ふ罪のない子供まで害すると云ふやうなことが民衆的に最も大きな排日感情を喚ぶ原因ではないかと思ひます。その点は單なる感情に云ふよりも人生觀、世界觀と云ふもの、相違から来るものと私は感ずる。「國家と國家との大戦争である、國家の存亡、消長に關する大きな戦ひ、その戦争の場合に男でも死ぬのだ時折リ子供や婦人が被害を受けるのは已むを得ない」と云ふのが東洋式の考へ方である。併しアングロサクソンのものを考へると云ふと、戦争は國家と國家との戦ひではあるけれども罪もない子

S 1.3.3.0-1 878 6129



供や婦女子に危険を及ぼすと云ふことは、此は怪しからぬと云ふことにはなる。此はどちらが良い悪いと云ふより、考へ方の相違と言つてよい。兎に角さうした感情論の相違が非常に英米人を動かして居ることは事實であります。

此れから平素言はれて居ることですが、イギリスが支那にインテレストをもつて居ること、か此等の排日の原因であり、また弱き味方する感情もその原因をなして居る。兎に角ヨーロッパを通じて活動寫真館等へ行きましても、日本がやつけられる場合は非常に喝采を致しますが、支那がやつけられる場合は日本人に對してはシツシツと言つて非常なる不満の意思を現はすのが普通であります。

四、日本よ何の爲に戦ふ？

S 133.0-1 6130 879 0476

此れからヨーロッパでよく質問されることがあります、此れは日本は一体何人のために戦争するのであ——此れがインテリの集まるところでは、外人は必ず質問する、日本の近衛首相は支那を懲罰するため兵を起したと言つて居るが、懲罰のためには大軍を起すと云ふ考へ方は、外國人には考へられないと見えて承知しない。日本が攻めて行く理由が此れ——には解らない、君は本當の日本の戦争の目的を、どう科共と言つてもよからうと言ひ、科共も實際政府の發表以上には云ふ事を知らないものでありますから、よく説明は出来ませんのでしたけれど、この点がどうも日支問題を見るのに外國人には一番解らない点のやうに科共は考へて居るのであります。此れに答へて、支那が共産主義化するのを真んて兵を起すと云ふ場合もありませう。共産主義を看板にすることは相手を見てやらぬと失敗する。労働者等の幹部相手には、共産党のことを言つても駄目であるが、カトリックは共産党を非常に嫌つて居りますから、共

S 133.0-1 880 6131



産党に對する戦争であると云ふと非常によく理解する。が彼等はまた同一体日本は共産主義をなせそう恐れるのを山と斯う云ふ質問が起る。ドイツやイタリアでは起りませぬがその他の國ではなせ日本がけがさう共産党を恐れるのだ、わんは共産党を平氣で許して居る、なせ日本だけがさう共産党を恐れるのだとよく斯う云ふ質問を受けるのであります。

それから日本でも問題になつて居るかも知れませぬが「一体どうやつて日支問題を解決する」——これが第三に聽かれる問題である。殊に英米人のやうに問題を考へる——何か行動する場合には行動目的を定め置いてその線に沿つて行動する國民から考へますと、何か解決の途、目的なくして行動することは不可能で、一体どうやつて解決する積りかと質問されるのであります。私も實はよく解りませぬから、自分勝手の理窟を並べて説明を致しますけれども、どうも納得されることは出来なかつたのであります。

三五

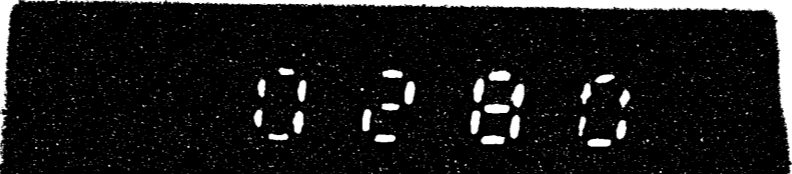
S 1.3.3.0-1 6132 881 0477

五、日支問題は善・悪より賢・愚

三六

上海へ来てニューヨーク・タイムスのアーバントと云ふ人の話では、日支問題は北支を日本に取られると云ふことは覺悟して居た。日本は滿洲を先に取つた、その次に北支に手が延び、その次は中支へといひのが日本の支那侵略の政策を日支那人は元から信じて居た。これはもう議論の餘地はない。併し北支を取られる場合にはわんは抵抗する、たゞではやらんぞといひ覺悟をした。そこでいろいろ問題を起して益々事件の擴大するやうな方針を執つた。斯うニューヨーク・タイムスのアーバントがアメリカのその記者に話してゐました。それだから上海の少くともさう云ふ人々の間には、日本がよいとか支那がよいとか道徳的のイシューはない。それはお互いごつこだ、問題はそれか賢いか、愚かである。日本の方法が良かったか悪かつたかか問題で、根本的のモーラルイシューはないと云ふの

S 1.3.3.0-1 882 6133





である。然るに外國に於てはさう云ふ説すらもないので、たゞもう日本が悪いのみ言つて居るのであります。名前の場所もそれから職も言はない方がよいが——ある大官の人が「一体日本は支那をどうする——日本は蔣介石を相手にしないと言つてそれと撃つ、それとや相手にするのだ、それから現在日本の占領地域内へ日本側の手によつて出来た政權の首腦者は古い支那人、政治家をけであつて、本當のヤンガー・セネレーションがある、それでは今後支那の大衆、若い人を中心としてやつて行けるか、その民衆の信頼を得て行くことが出来るか」と日本人に詰した。「いやそのうちに支那の平和が恢復すると云ふことはなれば、さう云ふ心配もございませぬ」と答へた。するとその人は「現在でも鐵道線路以外は殆んど混亂状態である、この混亂状態が果して何時になつたらよくなるか、漢口々々と云ふけれど、向いの方に進むことはかり考へて後方に問題が起つた場合、日本が一体その解決が出来るか」と云ふことを聴

S 1.3.3.0-1 6134 883 0478

いたさうであります。詰り「日本は今後支那問題で非常に困りはしないか、一体なぜ蔣介石を相手にせざるべからざるか」とばかり声明をして、具体的解決策をしないか」とその人が洩らしたさうであります。

六 要するに經濟戰

ノ 日本は信用低下を信ず

世界の事情から見まして、東洋に對する政治的武力的な干渉をするに云ふ國はまづないと思はれます。世界で東洋に干渉し得る國を想像して見ると、おそろしく四つあります。英國と佛蘭西、アメリカとロシアがそれですが、その何れも積極的には東洋の事件に備へ入れるに云ふことはない確信を致します。従つて残る問題は日本内地の經濟問題だけで、このことを考へて日本は行動する、これは一

S 1.3.3.0-1 8846135

向差支ないと思ふ。しかし財政的の干渉、政治的の干渉がないと云ふことは、経済的の制圧がないと云ふことではない。無論政治的の経済的の形をもつてやつて来る場合がある。即ち日本の信用が低下するといふ見透しが英國その他に濃厚である。同じく日本はやつて行けまい、初めは三四ヶ月位のものだと思つて居つたものがずつと今日までやつて来た、偉い國ではあるが結局は弱るをうらうらと云ひの如後等の考へ方である。そこで彼等と致しましては、わたくしは政治的の干渉はしないけれども商業的のありますから、どうせ経済的に困つて行く國に金を貸すことは出来ないと、純経済的な考へ方としてゐる者が多くなつて来つゝある。その一例として従来は三井、三菱等の信用は絶大でしつたが、利が出る頃には既にどこでも商業手形を割引かす殆んどキャッシュでなければ荷物が動かぬと云ふとです。

S 1.3.3.0-1 6136 885-0479

2. 日本品の信用無し

今度印度洋の方を廻つて帰つて参りましたや、悲觀的に感じましたのは、日本の製造品と云ふものが非常に信用がないと云ふこととあります。私は荷物が行違ひで船に來ませんでしをので取敢へかこの間の印度人の店に行つて身のまはりのものを買った、するといふは日本品ではない、日本品であるヒンヤツの場合は一圓五拾銭が二圓なのですが印度品は五シルする。そして印度品はものかよいが日本品はものが悪いと言つて居ります。それからカラーにしては色が直ぐ落ちると云ふのです。その日本人も一番情けないことは日本品が悪い、駄目だと印度人はいはれることと話をしてみました。我々日本人は成るべく日本品を頑張るのが買つて見ると永持ちかしない。また洗濯すると色が落ちて非常に困る。私は船の中で水着を買ひましたか、日本製のものはもうなくなつたので英國製の大きな商

S 1.3.3.0-1 886 6137

いのを買ひました。ところが船で海水に入ると云ふと色が落ちる。私は船の店に抗議してこれは日本製だらうと云つた。これは答へて確かにロンドンで仕入れたのだから色は落ちるなら本製は日本製かも知れませんが、我等日本人の間でも日本製は品が悪く色がすぐ落ちる。英國製のものはよいと云ふ考へになつて来て居る。私共のやうに悪くたつて日本のものを買ひと云ふやうなものと違つて、さう云ふ氣持のない外國人には日本のものは悪いと云ふ頭になるのは當然であります。

印度方面に於いて總ゆるところで日本品はものが悪いと深刻に冷遇されて居ることが驚くばかりであります。その上に關稅障壁が一九三二年頃から一時的に實施されて来て居ります。日本品は今後どうなりますか。

圓と暗相場あり

それから今一つやゝ存外に感じをこじがります。私共は通貨で暗相場のあるのは蘇聯のルーブルが三三等國のものだらうと實は思つてゐた。ところが日本の圓と暗相場のあると云ふことが發見されました。マロンホへ行つてあまり澤山もないポンドをポンドで引出さうとしますと、横浜正金の人か少し圓を買つてくれないうかといふ、横浜正金と云ふ大銀行が圓を買つて呉れないかといふのは大変珍らしいと思ひ、少し得意になつて圓を買つた。正金で圓を賣りたうと考へる理由が香港に來て分りました。公定相場で一ポンド十七円五にがしの円が香港に於ては廿一円の相場が出て居る。上海に参りますと云ふと船に來た兩替屋が一ポンドに對し廿四圓と云ふました。廿五圓以上が通り相場であります。詰りわい、普通には為替相場から云つて十七圓何かしのものか、香港、上海へ來ると云ふと安くなつて來て居る。まづスエズ運河以東は既に廿圓相場を現出して居ると云ふ状態である。而も案外向へ行つた人が氣が付か

S 1.3.3.0-1 888 6139

S 1.3.3.0-1 6138 887 0480

ないといふのは法幣が更に下つて居つて日本の圓とカッ／＼だから  
であります。従つて支那の法幣の崩落といふことを氣づかない。か  
ポンドなりドルなりから見ると支那の物價といふものは非常に安い。  
これは日本の圓のためにもまた支那民衆生活の経済的困憊のためにも  
大変大きな問題である。今ポンドをもつて支那のものを買ふ場合、  
まるで只みだりに安いのです。

七、英國を凝視して

日本は支那をどうするか

もう時間もありませんから結論をいひのものを述べて置きます  
か——番外國から飯つて大切をこと、思ひまするのは、一体日本  
は支那をどうするかといふ問題だ。これを決めないと外國でも手か

S 1.3.3.0-1 6140 889 0481

出ないのであります。英國の外務省辺りでは何時でも御用があつた  
ら用立てますと言つて居るが進んでは何も言つて来ない。イギリス  
が調停に積極的に乗出したといふことは嘘なのであります。イギリ  
スには日本を少し困るまで放つて置けといふ氣持のものが多いや  
うであります。嘗て昔者殊にチンパレン首相の如きは現實的な傾向  
の濃厚な人でありまして、出来れば日支關係を纏めたいと思つて  
居るやうです。しかし日本の立場が解らないから、ものを云つて寄  
越せないと云ひ立場をとつて居る。これは決して何もしないと云ひ  
のではないが、今まであまり動いて居らんと云ひの事實のやうで  
あります。勿論これはいろいろの關係があると思ひますけれども、  
イギリスは一番日本とともに関係が東洋問題に關係がありますから、いざ  
話をすると云ひ時は一番話が早く解る國ではないかと私は思ひので  
あります。

S 1.3.3.0-1 890 6141

2. 負けて勝った對伊外交

例のイタリーとの関係は殆んど戦争の危機に直面し、地中海に行つて見ると、その戦争の危機は云々かどんなに激しかつたかを物語つて居る。アレキサンドリヤの如きは、イタリーの襲撃に備へて——私は日本の領事に案内して貰ひまして見ましたか、土囊まつんであつた。事實地中海へ来て見てその危機が如何に逼迫して居つたかを初めて知りました。イタリーとしてはイーデンは相手としなかつた。イーデンがムツソリーニを訪ねて世分間會つたきりであつた。この人のある間はイタリーはイギリスと交渉しないと及イーデンの宣傳をしたものである。ところがこの宣傳の真最中にイーデンが罷めて、チエンパレンがそれを許して、ハリファックスを外務大臣にした。これは外の國では出来なないことである。場合によつては戦争をするかも知れないと云ふ時、その相手國の宣傳に乗つてイー

S 1.3.3.0-1 6142 891 0482

デンを罷めさせた。ところが英國は其處は偉いところで、チエンパレンが議會で演説をして居る「大國と云ふものは小國が有り得ない竟大なることを爲し得るのを」と云ふことを言つて居る。それを聴いて私は「これはムツソリーニが相撲に負けた」と思つた。英首相の意味は「よいぢやないか、イタリーはイギリスから見れば小さい國だ、小さい國が如何に頑張つても結局に於ては俺が勝つるのを」と云ふ意味である。その敵の攻撃の真最中にイーデンを罷めさせてイタリーに非常なる譲歩をした、しかも國民はその政府を攻撃しない。斯う云ふ巧妙な外交をやるのは、流石に英國をと思ふ。

3. 愛蘭問題に見せる腹藝

その後また——日本ではあまり知られて居らぬが、アイルランドに對するイギリスの譲歩と云ふのが、非常に外交的には注意すべき

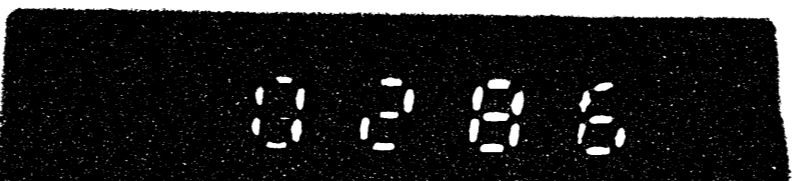
S 1.3.3.0-1 892 6143

ものである。千九百廿二年アイルランドは共和國になつたが、イギリスの借金は拂はない、キングの即位に對しては聯邦として署名しないとか、いろ／＼イギリスに構つて居る。アイルランド問題は何世紀かに亘つて英國の痛をなして居つた問題であります。これか私がロンドンを出ます時解決を致し、これに對する調印が出来るまでに至つたか、その條件のうち主なるものはイギリスは一億ポンドアイルランドに貸した金を一千万ポンドにまけて了つた、それからアイルランドに三つの海軍根據地がありましたものをこれを無條件でかへしてしまつた。これは對しチャーチルは千九百廿四年の條約締結の當事者としてこれを攻撃致しました。チャーチルは曰く、政府の説明のやうにアイルランドは進んでイギリスと戦争はしないかも知れぬが、英國と第三國との間に戦争が行はれる場合、イギリスが不利を招かないといふ保証はどこにある。斯う云ふ條件は拒否すべきだ。アイルランドは進んで行動はしないにしても、さう云ふ場

S 1.3.3.0-1 6144 893 0483

合に第三國の海軍根據地に提供すると云ふことには、これは非常なる英國の安全を害する也とかうチェンバレンを攻撃した。チェンバレンはこれに對して答へて「あなたかその當時參謀本部と御相談なつて御決めになつた時はその通りであつた、それと同じやうに我共のこの案に對してはいろ／＼參謀本部と相談した、參謀本部と相談の結果敵對心をもつて居る國民の間に憂鬱をもつよりむしろこれを棄て、互に情を隣國に保つて云ふことか、これが國家のためには一番安全である。さう云ふ結論に達しましたから我共は讓歩したのであります」と述べて居る。その時にチェンバレンは「これは小國の爲し得ないことか爲し得る也」と云つて居ります。アイルランドと云ふ國は御承知の通りの小さい國であります。関稅戰爭によつて得る不利と云ふのは英國の比ではない、困るのはアイルランドだ。それなのに英國は讓つてその條約を締結した。それを國民が非常に喜んで居る。どの新聞もどの新聞も喜んで「マクドナルド自治領大臣の功績である。それからチェンバレンの功績である」と

S 1.3.3.0-1 894 6145



此には各方面一致して賛意を表して居る、是してその結果マ  
クトナルトは近き将来に外務大臣ハリファックスの辞めた次の外務大  
臣であらうと言はれて居ります。

4. 融通、豹変自在の國柄

英國と云ふ國は、大體の見通しをつけて、よいとなると譲ると本  
いさうなことをやる。此は國民全体の常識と云ふものが非常に發  
達して居るからでありますか、この二三の事件から見ても、國際問  
題の解決に異常に手腕の勝れて居るのを感じて見ました。東洋に  
對する問題も一番に日本の立場を認め得るものは英國かやないかと  
思はれる。日本が頑として動かぬ、人力をもつてどうすることも出  
来ぬ。その場合頑張ることは英國のためではないと考へる時に、私  
は英國は真先に相當ラヂカルな政策の轉換をすると思ふ。英國で  
五

S 1.3.3.0-1 895 6146 0484

本の評判は非常に悪いが、是れは意に介するに足らないと思ふのであ  
ります。日本は經濟的事情によつて——經濟的政策にして誤りなく  
は、世界に對しては、此程心配することはない。たゞ空襲だけは——  
是れは無論脅威の必要からやつて居るのでありますか、やる以上は  
是れから来る世界の感情に影響する事情を頭に置いて外交政策を執  
つて頂きたいと思ふのであります。

八. 對英宣傳、但し主観抜き的事

最後に私か希望したいのは、今まで英國に對しては殆んど何にも  
宣傳機關及び日本の事情を紹介するやうな機關がない。あそこへ行  
つて吉田大使と云ふ人は案外偉いと思ふ。一部では評判が悪いと云  
ふことを聽いて居つたに拘らず現地に持つてみると偉いと思つた。  
大臣は餘程有難いものと思ふ。大臣候補の噂までも立てられると、そ

S 1.3.3.0-1 896 6147

の報告など本國の顔色ばかりみてやつてゐる。どういふ人の多い世の中に、どこへ行くに吉田と云ふ人は自己の主張に忠實な人で、今一番評判の悪い日英親善を一貫して主張して居ります。勿論頑固も間違つて頑固では困るか、方針さへ正しい場合はその頑固を買つてやつてよいと私は思ふ。これは余談でありますかロンドンには殆んど日本の事情を知らせるやうな機関がなく、これに反してアメリカには意外あります。これは第三世が大きくなつて居りますし、その外はニューヨーク辺りにも相當いろ／＼なものがありますか、ロンドン辺りでは、例へば會合などで双方の説を聴きたいから誰か日本側から出て貰ふたいと言つて來ても其處へ出せる適當の人か一人もない、どうせ英國と云ふものには何かしなくてはならぬと思ふから、この際積極的な機関を造ることが必要です。元來英國人と云ふものは個性を尊ぶ。買物に行つても、これがよいと云ふとプツと憤る。自分の判断は自分かする。君の指示を受ける必要がない

S 1.3.3.0-1 6148 897

0485

といつた態度です。ロンドンより御の書いたものの中に、「英國人に對しては説教しては駄目だ、基礎事實を並べて、その判断を此自身にまかすやうにせねばならぬ。ドイツの諸君は斯う斯うなるか故に必ず斯くせねばならぬといふ調子でやるか、英國人はそれでは反感を起してしまふ」と書いてありますか一寸さう云ふところはありますが、これは宣傳の主眼を交せずさう思ふ。プロバガンダは必要だが、それはインフオーメーションを與へる程度でなくてはならぬ。それで私はロンドンに是非さう云ふ機関を欲しいと思ひます、英米ではプロバガンダと云ふことを非常に嫌ひ、ニューヨーク辺りには國民使節と云ふものか澤山行つたか、可英米人は何にも知らぬ。おれが啓蒙してやるに似つかぬか國民使節ならばその効果は却つて悪い。プロバガンダを看板にして効果のある説はない。なるべく知らぬやうな顔をして、個人の資格だと言つて話すと初めてよく解る。無論政府の役人の話には権限を持つてゐるから尊敬されますか、公許

S 1.3.3.0-1 898 6149



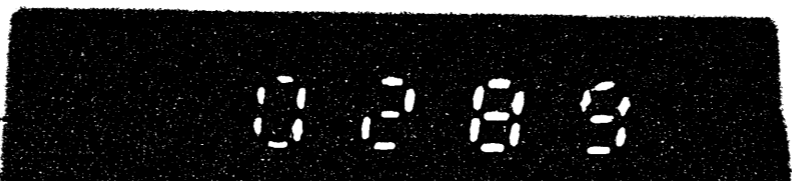
プロバカンチストは駄目です。そこで私の考へますのは大きな會社——三井とか三菱とかまを正金とか及び大毎、大朝とか云々やうな方面のところで、その方面のことに携はる重役待遇の人を駐在させて、電報で何時でも向いの大官や重要人物と話の出来る人を駐在させて置いて、普通の事務から離れて専らさう云いことをする人を國策的の意味から置くことに必要ではないかと感ずるのであります。大使館辺りでは人間が余りかはりすぎる。大切な交渉をするのにまづ名刺をもつて行つて交渉しなければならぬと云ふ款で、殊にイギリス人を對手にするには友人関係でなければ効果がない。これに付て一つ笑ひ話がある。ある船が難破してある島に漂着した。助かつた人はスコットランド人二人、アイルランド人二人、これにイギリス人二人であつたが、四五年経つてその島へ行つて見ると、アイルランド人二人は喧嘩をして兩方とも死んで居つた。アイルランド人が喧嘩好きなことを示すものだ。スコットランド人はキルドを拵へ

四三

S 1.3.3.0-1 6150 899 0486

て商賣をしてゐた。スコットランド人は却々、さい、金儲けのうまいと云ひこいた。あれのイギリス人二人はお互に紹介がないからと言つて五年後でも二人は未だ話合つて居らなかつたこと云いこいで(笑声)……これは實によくイギリス人の氣風を現はして居る。伯林で聞いた話でありますかアドロンと云い一流のホテルのウエターの頭が二人を話しました。そのホテルの食堂へドイツ人が進入つてくると、一体このホテルは何處の誰か持つて居るだらうとおつしなから進入つてくる。イギリス人はこの食堂は俺のものだといつた顔をして進入つて来る。アメリカ人はやら捧め、金を拂ひさへすりやいゝ人ださうと云つた風を顔をして進入つてくると。これは三國人の氣性をぞれ、現はしてゐます。英國人には平素永くその土地に居らなしては特にイギリス人なにかとの交渉は出来ないと思ひます。

S 1.3.3.0-1 900 6151



と考へる。新聞関係なども、今一層努力が必要でイギリスは輿論と云ふものに力がある。私共は好いても嫌つても兎に角日本の對外貿易の大部分——七割五分はロンドンに於て決済されるに云々やうな力をもつて居るにすれば、それに對處することは必要である。大きな會社が國策の意味から出来るだけ永くゆる／＼遊ばして置いて、電話で向いの要人と話の出来るやうな人が四五人居つたら大変よいと思ふ。英國の如きは輿論が支配する國であります。その輿論を率ゆるものは支配階級で、それが國家を動かしてゐる。それと聯絡を持つことが必要です。

十、國際會議を善用せよ

今一つは眞面目な、そして恒久的な國際會議をいには、出来るだけ聯絡をせざるべきであると思ふ。よく新聞にも見ますし、人には

0487

0487

S 1.3.3.0-1

6152

901

聴かされるのであります。世界初つて以來現在の日本ほど不人氣な國はあつたまいなといはれる。ドイツ、イタリイも不人氣をかゝる。これは元々白人種である。彼等はお互に行き來もし彼等の間には友人もある。ところが日本人は最近知れ亘つた國であるから、今度の支那事変をどうかういふは乱暴なことをする國であるか知れないと、さう云ふ風にとられて居ると言つたものが二三人居ります。確かに日本人は今まで外國に比較的知れ亘つて居らなかつたその結果無稽から來る誤解が随分あります。不必要に日本人は誤解されて居る。日本人は世界に本當に知られることが是非とも必要である。それは積極的に世界と聯絡を持つことが必要です。この方面に日本は今少し努力する必要があると思ひます。——(以下略)——

S 1.3.3.0-1 902 6153

0488